HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	インターネットへようこそ　1　：マルチメディア講座実践編
Author(s)	高井, 哲彦
Citation	英国ニュースダイジェスト, 503, 12
Issue Date	1995-09-07
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/53055
Type	article
File Information	newsdigest503.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

マルチメディア講座　実践編

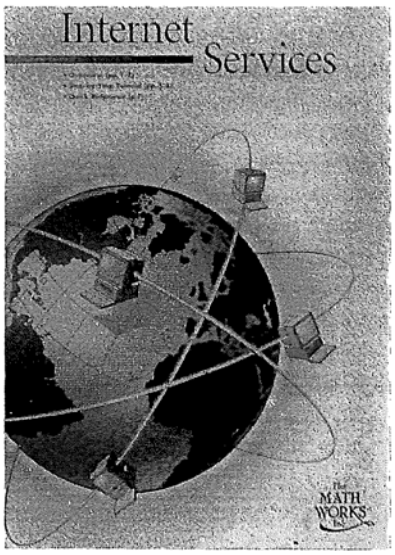
インターネットへようこそ

—1—

講師▼高井哲彦

先に連載した「久富美紀のマルチメディア入門」の戸田光太郎講師に引き続き、マルチメディアの実践現場を追いかけます。

いま注目のインターネットは、私たちの生活と実際はどんな関係があるのでしょうか。講師はヨーロッパのネットワーク事情に詳しい高井哲彦さんです。



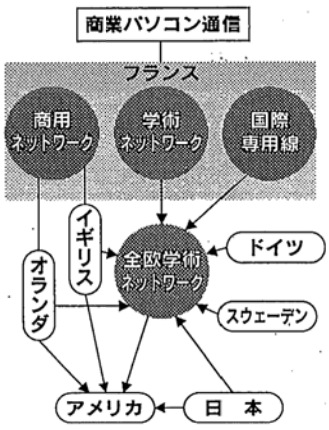
米国のThe Math Works　のメイン画面。インターネットに国境はないことを、ビジュアルで表現している

世界をつなぐネットワーク

●地球規模の通信網

インターネットとは何か、一言でいえば「ネットワークのネットワーク」です。国境もなければ、中心も周辺もなく、コントロールもありません。この姿幻自在でゆるやかな広域共同体は、各人のコミュニケーションの意志のみによって支えられています。この不思議な形態は、一種の誇りを込めて「しつけのよいアナーキズム」とよばれることもあります。

この連載では、インターネットの発達が私たちの今後の社会生活にどんな意味があるのか、文系人間のフットワークで迫ってみたいと思います。



ヨーロッパのインターネット網
(フランスを中心にして見た場合)

インターネットには、電子メール、テーマ別会議、データベース、計算機遠隔操作、マルチメディア情報サービスなどの機能があります。はじめは研究者間の情報交換が目的だったのですが、一九九〇年代の商業化の進展により、情報の質も量も飛躍的に充実しつつあります。

その内容は実に種々雑多で、ホワイト・ハウスや日本の首相官邸などの公共団体にもアクセスできるほか、新聞雑誌記事からスポーツ・ニュース、医療相談、旅行案内、ショッピングまで、生活情報も幅が広がっています。

●フランスのミニテル

情報ネットワークが普及するかどうかは、それが提供する情報の質と、操作に必要な手間・時間・費用のバランスにかかっています。

情報過多の今日では、新技術の可能性と限界を見極め、自分にとって必要なものを選び取ることが、私たちの新しい生活の知恵になってきています。電子情報に費やす時間と費用は生活時間と生活費の一割以下であることが健全だ、とするエンゲル係数ならぬ「インテリ係数」の議論もあります。では、はたしてインターネットは私たちの社会に浸透するでしょうか。

情報ネットワークのひとつの成功例がフランスで発展した「ミニテル」です。フランスの家庭には、小型ワープロのような端末機がほぼ一家に一台あります。

ミニテルでは、天気予報から映画情報、列車の切符の予約まで一千五百以上の情報サービスを利用できます。操作は子供や高齢者にも簡単。電話回線を使っているので、料金は電話料金と共に引き落とされます。パリ圏内ならテレコムが無料で貸し出し、郵便局でも利用できます。

情報化社会というと、米国のパソコン・ネットワークがしばしばモデルにされますが、現在のパソコン利用者はやはり一定以上の教育と経済力のある人々です。この意味で、フランスのミニテルは、情報ネットワークが社会の全階層の日常生活に根ざした世界でも数少ない実例といえます。

このように独自の国内情報網の完備したフランスでも、最近は、グローバル・ネットワークに行政・業者・利用者の視点が移りつつあります。ミニテル端末からインターネットの電子メールをやりとりできるサービスも現われました。

●簡単マルチメディア

インターネットには従来のパソコン通信やミニテルにない特長が数多くあります。文字だけでなく映像も送れるのは大きな長所のひとつです。操作はどんどん易しくビジュアルになってきています。一端接続してしまえば、メニュー画面の指示にしたがってマウスを動かすだけですので、ワープロより簡単かもしれません。

はじめは米国で発達した英語中心のサービスでしたが、非英語圏での利用も一般的になりました。たとえば、NTTの日本語の案内板に接続してそこを窓口にすれば、海外からのアクセスでも、日本にいるのとまったく同じ日本語環境で操作できます。果てしなく広がる地平にはじめて降り立つと、目のくらむような驚きと解放感に襲われることでしょう。

●ネット自体は無料

インターネットを利用するための最低限必要な費用を考えてみましょう。パソコンとモデムは合計十五万円の新型を三年間は無修理で使うと考えて、月四千円の支出。実はインターネット自体は無料です。ただ、接続するために商業サービスを利用すると、サービス料として最低月二千円ほど費用がかかります。電話料金を月五千円くらいかかるとすると、合計は月一万円強でしょうか。娯楽だとしたら、まだ高くつく趣味といえます。

インターネットが社会の全階層に普及するためには、北米・カナダのように市内通話が使用時間にかかわらず一定額となり、無料のミニテル端末ほどではないにせよ、情報機器がいまの半額以下になる必要があるでしょう。

しかし、これらの費用面の改善は近いうちにある程度実現する可能性もあります。パソコン価格は現在も急低下を続けていますし、日本のNTTをはじめ各国の電話会社もマルチメディア通信のために市内通話定額制の導入を本格的に検討しています。

インターネットは、まだ未知数の部分も含んでいますが、近いうちにきっと私たちの社会に定着すると考えています。